2011年度上半期決算説明

2011年11月24日
鬼怒川ゴム工業株式会社
取締役社長　関山　定男

KINUGAWA

1. 2011年度上半期決算の状況
2. 2011年度通期見通し
3. トピックス

KINUGAWA

2011年度上半期決算概要

半歩先んじた震災による減産対策や、客先から市況回収できない部分を自らの合理化によりカバーしたことにより、増収増益を達成

（単位：億円/未満四捨五入）

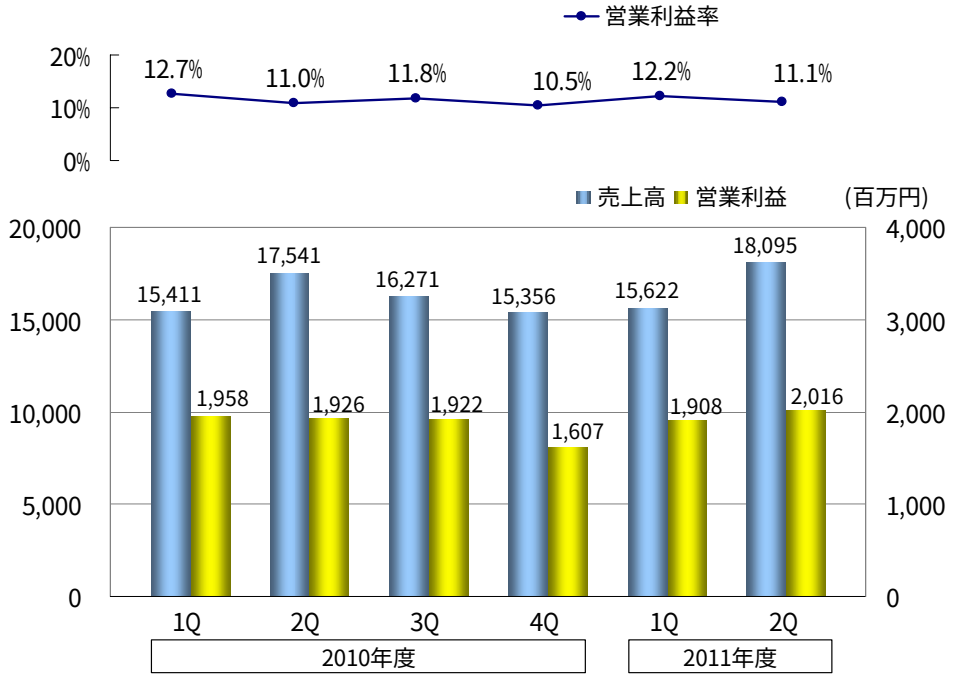
	2010年度 第2四半期累計	2011年度 第2四半期累計
売 上 高	329.5	337.2 (102%)
営業利益	38.8	39.2 (101%)
率	11.8%	11.6%
経常利益	39.0	39.2 (101%)
率	11.8%	11.6%
当期利益	23.0	24.8 (107%)
総 資 産	423.8	454.6 (107%)
自己資本	158.7	182.7 (115%)
率	37.5%	40.2%
借入金残	98.7	92.1
DEレシオ	0.6	0.5

前期BS項目は3月末。（ ）内は前期との比率。

KINUGAWA

四半期毎 売上・営業利益推移（2010～2011年度）

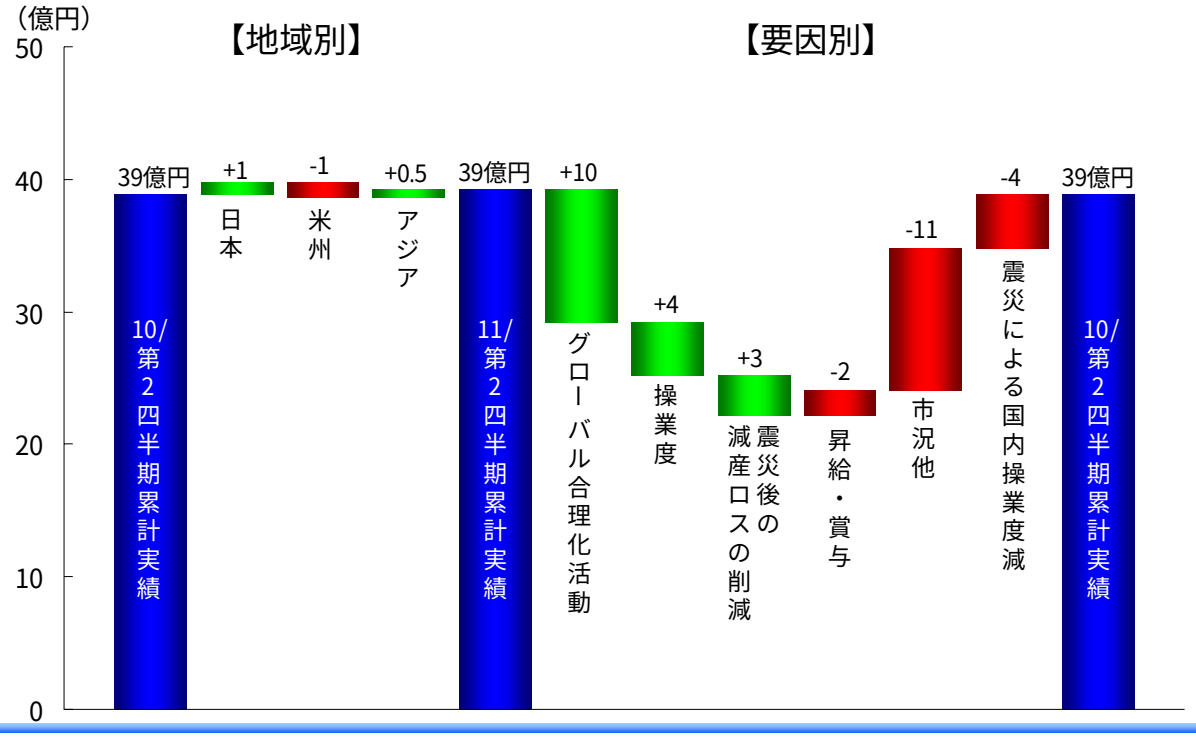
外部環境による量の変動にかかわらず、モノ造り力の継続した改善・改革と、調達コスト低減活動等により、高収益を維持・継続



KINUGAWA

営業利益増加要因（地域別・要因別）

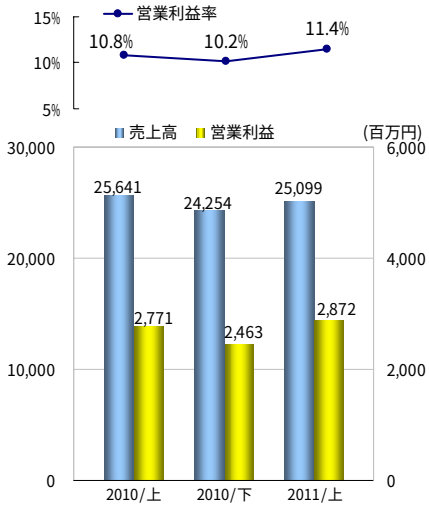
震災ロスの極小化と、回収の遅れている市況等の影響を改善活動でカバーした



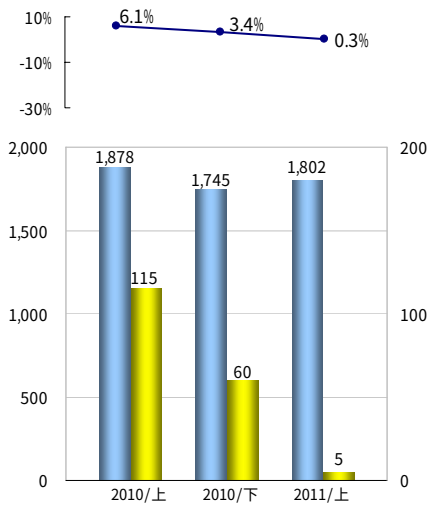
KINUGAWA

所在地別の状況

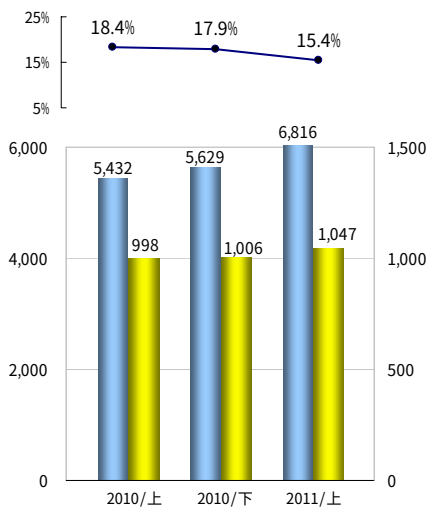
日本



米州



アジア



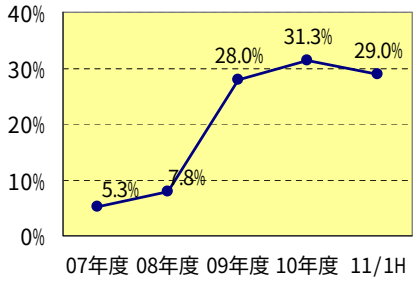
- 日本；震災影響や材料価格高騰の環境下でも、急激な受注変動に対応すべく的確な配置人員の調整を行なったことや、その他の合理化努力の継続により利益率が向上
- 米州；メキシコ新工場立ち上げによる一過性のコスト増や客先からの市況回収遅れにより減益となったが、下期には挽回する見込み
- アジア；原料ゴムの価格高騰の影響により一時的に利益率が下がったが、継続的な現場力向上活動で増収増益達成

KINUGAWA

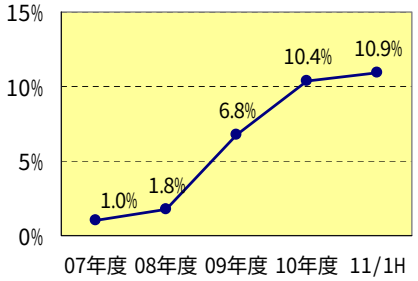
主要経営指標の達成状況

主要経営指標は着実に向上し、高い経営効率を維持している

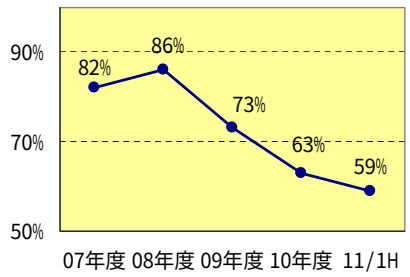
ＲＯＥ



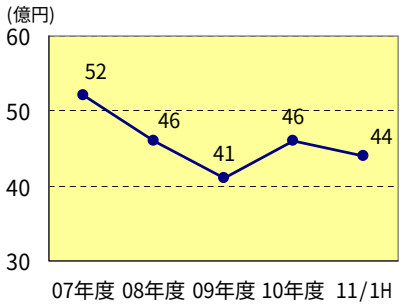
ＲＯＡ



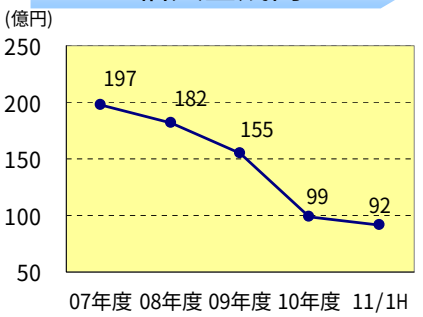
損益分岐点売上高比率



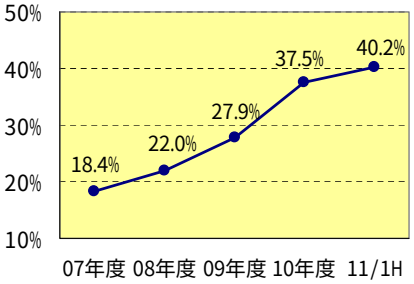
棚卸資産残高



借入金残高



自己資本比率



KINUGAWA

1．2011年上半期決算の状況

2．2011年度通期見通し

3. トピックス

KINUGAWA

2011年度通期見通し

グループでモノ造り改善活動に継続して取り組んだ結果、増収増益となる見通し

（単位：億円/未満四捨五入）

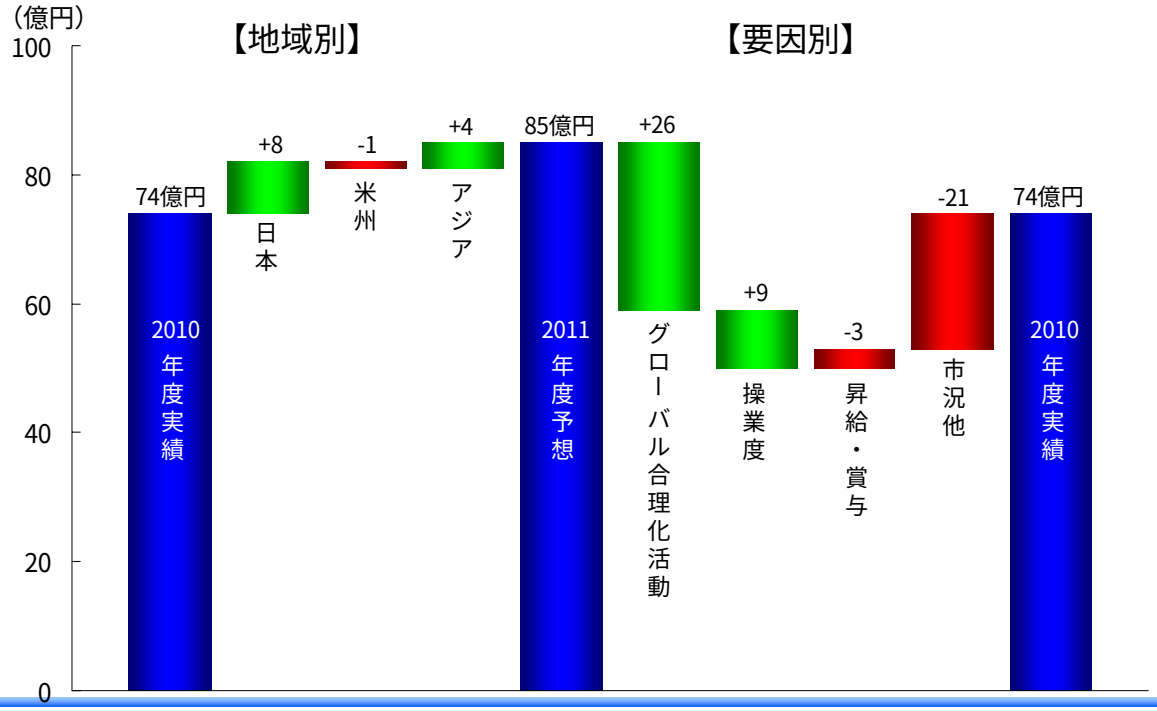
	2010年度上半期	2010年度通期	2011年度上半期	2011年度通期予想	（参考）前回予想(6月30日)
売上高	329.5	645.8	337.2	700.0 (108%)	660.0
営業利益	38.8	74.1	39.2	85.0 (115%)	77.0
率	11.8%	11.5%	11.6%	12.1%	11.7%
経常利益	39.0	74.9	39.2	85.0 (113%)	77.0
率	11.8%	11.6%	11.6%	12.1%	11.7%
当期利益	23.0	44.7	24.8	52.0 (116%)	46.0

（ ）内は前期との比率。

KINUGAWA

2011年度通期見通し

客先からの市況回収遅れによる減益要因はあるが、合理化活動の継続により増益となる見通し



KINUGAWA

1．2011年上半期決算の状況

2．2011年度通期見通し

3. トピックス

KINUGAWA

2011年度上半期の主な活動

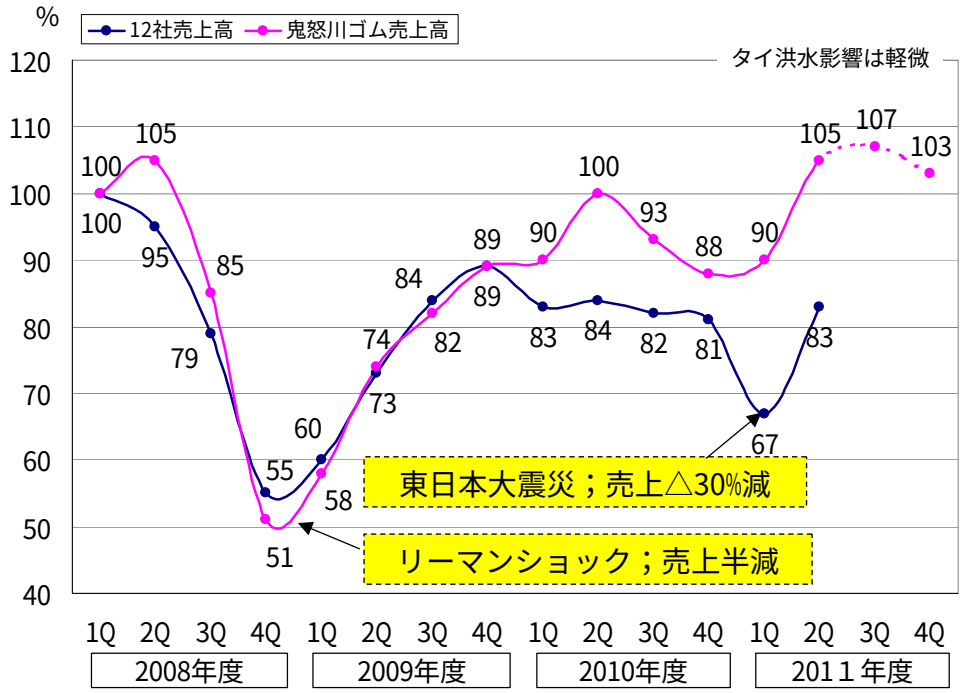
1. 震災に伴う国内拠点のモノ造り対応

- 生産設備の被害は全社を挙げての対応と取引先のご協力により他社に先駆けて正常化
- リーマンショック時を上回る迅速な減産対応を実施し、製造部門は勿論、間接部門を含めてロス発生を最小限に抑制
- 省エネと節電への対応
  - 熱源を持つ生産設備の断熱処理等、徹底した省エネ節電活動により、ピーク電力を対前年比22%削減し、消費電力も9%削減

KINUGAWA

リーマン・震災等のインパクト（売上高）

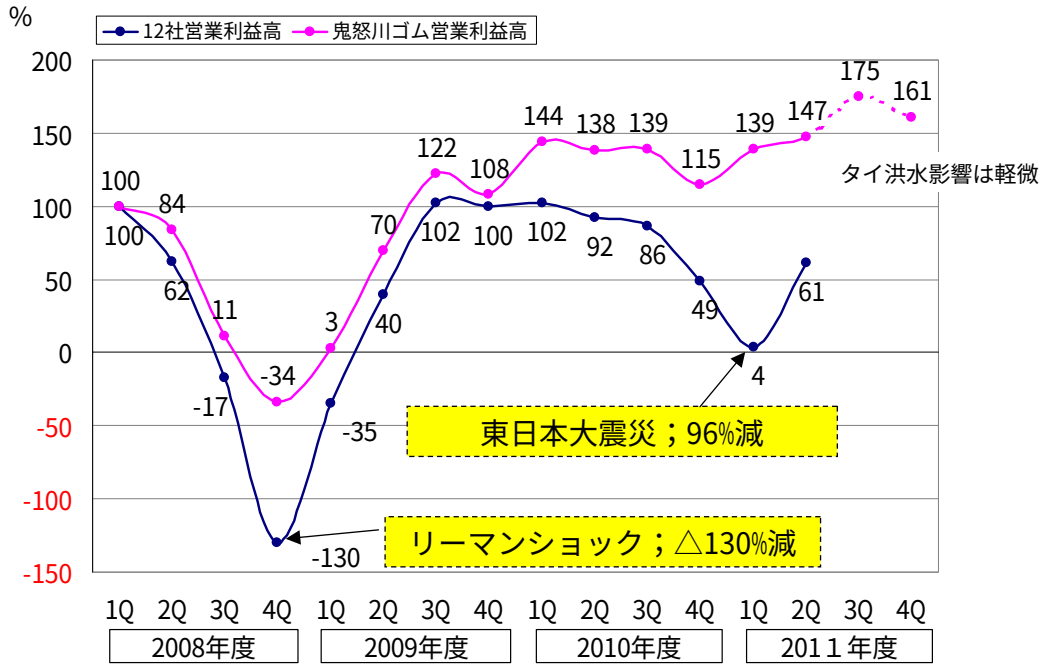
震災による売上減少は一時的かつ軽微にとどめることができた



KINUGAWA

リーマン・震災等のインパクト（営業利益）

リーマンショックの経験を生かした諸施策が、震災による利益減少を最小限にした



KINUGAWA

2. 震災に伴う部品供給網寸断への対応

- 客先及び原材料メーカー殿との協働による代替原材料の早期採用
- 設備・治工具・金型・資材の海外調達をいち早く進めた結果、震災での調達リスクを最小限に回避
- 原材料を本社にて集中管理することにより、拠点別に最適配分を実施

3. 大減産後の増産への対応

- グループ内で応援体制により、配員ロスを最小限に抑止。更に、客先の生産変動に対する対応力が大幅に向上
- 原材料の汎用化推進による必要数量確保

継続活動中

2011年度上期の主な活動

4. 売上拡大への布石

- ホース事業のグローバル展開を強化するために帝都ゴムを完全子会社化
- 新興国への販路拡大のために、韓国和承R&A社とインドビジネスでの業務提携契約を締結
- 既存顧客への拡販に加え、欧米系メーカーへの拡販も順調で、上期合計25億円の受注を計画通り獲得
- 建機メーカー向けに防振ゴムを拡販

KINUGAWA

タイの洪水の影響について

1. タイの子会社

- キヌガワタイランドKGT（車体シール部品）
- CPR（防振ゴム）

2. 洪水への対応

- 建屋入口をブロックで浸水を防止、設備は一切被害なし
- 入手困難な部品を代替調達に切り替え
- 中国子会社での応援生産

当社子会社はアユタヤ県ワンガナイ市（アユタヤ県の東端）に位置し、アユタヤ中心部より約２０km離れている

KINUGAWA

タイの洪水の影響について

3. 稼働状況

- 車体シール部品は取引先の生産停止のため輸出部品中心に生産中。10月～12月の稼働率は30%減少する見通し
- 防振ゴムは一時減産したが、10月末より通常通りの稼働となっている

4. 当期の連結損益への影響

- 主要取引先は11月14日より生産を再開
- 予想される減産規模（最大6万台）を前提とすると、当期の連結損益への影響は軽微

KINUGAWA

KINUGAWA